

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091900052		
法人名	社会福祉法人真養会		
事業所名	グループホーム老花家		
所在地	福岡県田川市大字伊田2585-4		
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果確定日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和7年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

施設内美化に努めております。 また、季節の行事食には力を入れ、入居者様にも大変お喜びいただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには、徒歩で散歩できる公園があり、敷地内には畑があるため野菜の栽培・収穫が出来るのどかな環境に「グループホーム 老花家」がある。敷地内の草抜きや野菜を栽培したり、近隣に散歩に行ったり等、生活の中で体を動かす機会がある。利用者の自立度が高いため、利用者自身ができる事はしてもらい、少しでも自立支援に繋げる様にしている。家族に対して定期的に生活状況を報告したり、ケアプラン更新時には利用者や家族の意向を聴いたりする機会を持つ等、コミュニケーションを大切にしている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼と終礼に於いて、唱和している。利用者様一人ひとりの個性を尊重し、その方らしく生き生きと暮らせるよう、受容の姿勢で支援している。	法人全体の理念があるため、事業所の事務所に掲示をして、職員がいつでも見れるようにしている。毎日、朝礼と終礼で理念の唱和を実施している。月1回のミーティングで事例に基づいて、理念に添ったケアを実践出来ているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や校区行事への参加の依頼があれば、天候や体調を鑑み参加させて頂く。	2か月に1回は地域の清掃活動があるため、職員が参加できる際には参加する様にしている。地域での集まりは開催していない状況であるが、事業所での夏祭り等の行事がある際は、地域にポスター掲示等をして、地域の方に参加していただくようにご案内をしている。地域住民と共に、防災教室を開催して、消防、地域の方々や地域包括支援センター職員、同一敷地内にある通所介護の利用者も参加して開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者に対する対応についての研修を不定期で行っており、併設のデイサービスと連携をはかり、情報の収集と交換に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、民生委員や地域包括の職員にお集まりいただき報告や話し合いを実施している。	2か月に1回開催しており、民生委員や地域包括支援センター職員、事業所職員、利用者が参加している。事業所内での出来事の報告がメインの会議となっている。コロナ禍以前は、地域との関わりも多かったが、現在は関わりが少なくなっている状況である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括からの空き状況の問い合わせに応じたり、ケースワーカーと常に情報交換に努めている。	生活保護受給者の利用者がいるため、ケースワーカーの訪問があったり、連携を図る事が多くあり、入退院の報告や受診の報告、自立支援医療の更新の申請代行等をしている。事業所の空床情報について、地域包括支援センターから問い合わせがあった場合は情報提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者様の出入りは可能で、希望に応じ付き添いでの対応を行っている。身体拘束に関する研修資料を回覧するなど、職員の意識付けも不定期で行っている。	身体拘束を実施している利用者はいない。転倒の危険性がある利用者に対して、センサーを利用している利用者もいる。夜間帯等、時間帯を限って利用をしている。「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、定期的に「虐待防止及び身体拘束等の適正化委員会」を開催している。		

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修資料を回覧するなど、職員の意識向上に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月一回行われる情報交換会にて、定期的に周知している。 入居者のうち3名の方に成年後見人制度の活用を検討中。	成年後見制度の申請を検討している利用者がいる。月1回の職員会議の際に、定期的に成年後見制度に関する研修を実施している。研修会に参加出来ない職員は、資料を回覧している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約・改定等に際して、十分な説明を行った上で、理解と納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や日常生活の中での会話の中で、傾聴に徹しニーズを探っている。またケアプランの見直しに際し、利用者様とそのご家族へのアセスメントを徹底している。そのプランを基に、個別ケアを実践している。	入居の際に、事業所の理念や方針に賛同していたりしている方も多いため、利用者家族からは特に運営上の意見を頂戴する事はなかった。	運営に関する利用者、家族等の意見が少しでも反映されるように、意見箱を設置してはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の【意見交換会】に際し、前以て職員全員から議題を提案してもらったり、意見を持って会に臨み、意見や情報の共有や問題の解決法を全員で検討・実践している。記録を残し、全員が閲覧できるよう保管している。	月1回の職員会議や年に数回、法人職員が事業所職員と面談をする中で、事業所の運営面での意見を出しやすくなる機会がある。その際、職員から積極的に運営面での意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この仕事に誇りをもって臨めるよう、研修体制を整備している。休憩時間の確保や、希望休等についても対応している。又、記録用紙の書式改定などを通し、業務改善は継続している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、性別年齢は問わず、人柄と意欲が一番の条件と考える。勤務時間・勤務日数や希望休などについては、職員間でコンセンサスを取り、働きやすい職場環境作りを行っている。	50歳代から70歳代の職員が主に勤務している。採用に関しては、性別や年齢を問わず採用をするようにしている。人間性や勤務意欲を重要視して採用する様にしている。毎月、利用者と職員が一緒に季節に応じた作品を作る等、職員の特技を生かしたケアが実施出来ている。	

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼・終礼の申し送りは勿論、毎月定例開催の【意見交換会】を通じて、利用者様一人ひとりの個性やニーズを知り、尊厳を護るよう努めている。	言葉遣い等、普段からの関わりの中で人権を尊重するよう努めている。月1回の職員会議の中で人権を考える機会を作るようにしている。法人全体会議の際に、人権の内容を含む研修を実施しており、職員全員に伝達をするようにしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、認知症介護に関する知識や技術の向上を目指し、常時研修資料の掲示や回覧を実施している。また、研修案内も常に発信し、希望者はシフトを考慮するなど柔軟に対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と、日々の業務を通じ交流している。また管理者同士も定例会議を通して、他事業所の情報を共有し互いのサービス向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	先ず、傾聴と受容の姿勢で、ご本人と関りを持ち信頼関係を築くよう努めている。受け入れられている安心を感じていただけるようコミュニケーションに重点を置いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際には、現在困っている事や不安な事、当施設への要望を伺っている。共感の意識を以て傾聴し、問題の解決と要望の実現へ向けて互いに協力し合える関係性づくりを目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の生活歴や何を大切に思っているか、何に困っているのかなど、日々の関りの中で傾聴し、記録に残す事を徹底している。その情報を基に支援計画を策定し実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様其々の出来ることできない事を見極め、その方に応じた役割を担って頂き、共同作業の積み重ねの中で関係性を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ連絡をして面会に来てもらったり、病院受診をご家族に協力いただく等、共に本人を支えていく関係を築いている。		

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで外出した際に、住み慣れた地域に関しお話をしたり、必要に応じて寄り道をしたりしている。	外出ドライブの際に、利用者が住んでいた地域にドライブをして、昔を懐かしむ時間を作っている。利用者が家族と電話をしたいと希望があった際には、対応する様にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやカラオケ等の時間を持ち、そこでも利用者同士のかかわりが持てる機会を提供している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご逝去された際は、ご家族よりご連絡をいただき、時間の都合がつけばご葬儀に参列するなど、退去後も関係が持てるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成において、本人及びご家族の意向を聞き、ご希望にそうようサービスを提供している。	ケアプランの更新の際には、家族に電話をして生活上の希望をお聴きしたり、手紙を書いて家族に意向確認する等、家族の意向を少しでも取り入れようとしている。利用者に対しては、日常生活の中で意向を聴くように取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にご本人やご家族と積極的にコミュニケーションを図りこれまでの経過などヒアリングして記録に残している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご本人の状態や様子観察に努め、変化が見られたら、その都度職員間で情報を共有している。残存能力を見極め、記録を残すことを心掛けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し前にモニタリング・担当者会議を開催している。その為に日頃の介護記録の蓄積が重要になることを職員間で共有している。	アセスメントやケアプランの作成、家族との連絡のやり取りやサービス担当者会議などの設定は計画作成担当者が実施している。家族に生活状況の報告を電話や手紙を通じて実施して、ケアプランに関しての意向を聴くようにしている。利用者の心身状態に大きな変化があった際には、職員の意見を取り入れながら周知する様にしている。	短期目標に添ってモニタリングが実施できているため、今後も職員間で目標を共有して、よりよいケアに努めてください。

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、事実をありのままに記載し、ご本人の言葉をそのまま記録するよう指導している。イレギュラーなエピソードは朝礼・終礼の申し送りで共有し、その後のケアプラン策定に結び付けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の関わりから見えてくるニーズや課題は記録に残し、朝礼・終礼などで情報を共有している。優先順位を見極め会議で検討し、柔軟に対応できるよう努めている。その際、職員によって違う対応をせず、一貫性のある対応でご本人を混乱させない配慮をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のかかりつけ医・市役所など様々な資源を活用し、その情報共有を欠かさず行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医へ定期受診を支援している。介護記録を基に日頃の様子や変化を主治医へ報告し、情報交換に努めている。突発的な体調変化も都度連絡相談し、適切な医療が行われるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を受診している利用者もいる。受診に関しては家族の協力を得ながら受診の機会を得ているが、家族対応が難しい場合は、事業所職員が対応している。看護の資格を持った職員の割合が多い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には看護職は常駐していないことから、日常の様子変化は記録に残した上で、かかりつけ医療機関の看護職を窓口主治医へ相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこれまでの経過を細かく病棟へ申し送り、退院時には、退院前カンファレンスに参加し、看護サマリーを基に報告を受け、情報の交換と共有を徹底している。又、入院中も電話や面会にて定期的に様子を尋ね記録に残して、職員間でも周知している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃より、ご本人やご家族へ要望のヒアリングを試みている。先々重度化してから結論を出すのは困難で、予めの考えをご家族間で擦り合わせておく必要性をお話して理解を求めている。	看取りの段階になると、適切な医療が受けられるような医療機関に転院をしていただくようにしている。入居の段階で看取りの段階になった際には医療機関に転院をしていただくことを説明、了承していただいた上で入居をしていただいている。	

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の流れやAEDの操作方法に関して全職員で定期的に研修を行い周知徹底し、備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害・火災の避難訓練実施を通し、全職員がその手順や方法を把握している。	大規模震災に伴う通電火災や地震に関する防災訓練を実施している。事業所内だけではなく、地域や消防、関連事業所と一緒に実施している。消防署や消防関係の業者の立ち合いがあり、水消火器の実演をしたり、講評や助言をいただいている。夜間想定訓練も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する内部研修などを通し、職員自身が対応の是非を常に意識する職場環境づくりに努めている。	年度当初に接遇研修を実施している。洋服の着脱の際や排泄介助の際には扉を閉める等、プライバシーの配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な問いかけにならないよう、オープンクエスチョンを意識している。意思決定が困難な方には適宜予めの選択肢を幾つか用意することもある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の主導権を持つのではなく、あくまでもこれまでの生活を基にしたご本人の意思やペースを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には、好みの着替え衣類を選んで戴いたり、お化粧やマニキュアなど楽しんでいられる方もおられる。男性は電気シェーバーで髭剃りをするなどの支援をしている。2か月に一度訪問美容室を利用し、好みの髪型やヘアカラーにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間はテレビを消し、リクエストに応じてBGMを流している。一人ひとりの残存機能に配慮しながら役割を担って頂き、職員と共に準備や片づけなど行っている。	食材の購入は職員が実施しており、職員が3食調理をして利用者に提供している。食事の準備や片付けが出来る利用者には手伝ってもらったり、職員と一緒にしている。うなぎ、ちらし寿司、サンドイッチ、正月料理等の行事食や、たこやき、フルーツカクテル等のおやつ作りを実施している。敷地内の畑でキュウリ、ナス、オクラ等を栽培しており、収穫して食事の際に提供している。	

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基礎疾患や服用薬の関係で禁忌な食材は職員間で周知しており、それを踏まえ好みにも配慮しながら、メニューを作成、調理している。形態も状態に十分配慮をして個別に対応している。食事や水分の摂取量は欠かさず記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期で訪問歯科に診てもらいながら、その方に応じたケアを心掛け、声掛けや介助をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に応じた排泄の支援を行っている。	利用者ごとに排泄チェック表を記録して、排尿の間隔を観察してトイレ誘導を実施している。入居時はオムツでの排尿だった方が、排泄チェック表を使用して排尿間隔を把握して、失禁が少なくなった利用者もいる。布パンツを使用している利用者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態や水分摂取量、緩下剤の服用状況の情報共有と記録を行い、その方に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日はあるものの、それを強いることはせずゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	入浴は週2回～3回提供している。必要に応じて入浴回数を増やして清潔を保つようにしている。入浴を嫌がる利用者に対しては、時間をおいて声掛けする事で入浴をしていただいている。入浴後はスキンケアを丁寧に個々に合わせて実施している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境の整備も含め、その方の生活習慣や体調・状況に応じて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬に関して分からないことは、主治医や薬剤師に尋ね、疑問を残さない事を徹底している。処方薬に変更があった時には体調の変化の有無など、様子観察し、その記録と主治医や職員へ情報共有も欠かさず行っている。薬の管理は施設で行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割分担や毎日のレクリエーション活動を通して活気ある生活環境の創造に努めている。季節行事の企画・開催で季節の移ろいを感じて楽しんで頂けるよう工夫している。		

R7.3自己・外部評価表(グループホーム老花家)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には少人数で近くの公園に散歩に出掛け楽しんで頂いている。施設周辺の草取りや、畑仕事等で野菜の収穫などを喜び合っている。	天気の良い日には、近くの公園に散歩に行ったり、桜、あじさい、紅葉等を見に行ったり、道の駅でご飯を食べたり外出をする機会を持っている。敷地内に畑があり、キュウリやナス、おくらを育てて利用者と一緒に収穫をして、食事の際に提供している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に管理して自分で使う事が適う入居者様は2名。使うことをせず、自身で持っていることで安心・満足している方が1名おられる。買い物支援時にはご自分で支払って頂くなどしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者様は1名おられたが、詐欺の電話がかかってきたため今はご家族に引き取ってもらった。ご家族への連絡を希望された際は、施設の電話を利用しただけしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃や除菌を徹底している。室温調整や換気を心掛け、心地よい空間づくりを行っている。季節の野花を取りに共に掛け、施設内に飾って季節を感じて頂く工夫をしている。	テレビやラジオ、カラオケ設備、テーブル、椅子、シーリングファン、ソファ等がある。利用者と一緒に作った作品が飾られてあり、季節間のある雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性を考慮しつつ、共用空間での座席配置を行っている。共用空間には3人掛けソファも配置しており、思い思いに腰かけコミュニケーションを楽しむ場面も見受ける。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談の上、馴染みの家具や寝具、家族の写真を配置するなど、ご本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	事業所の備品として、介護用ベッド、電灯、カーテン、エアコン、クローゼットがある。入退居時にはクロスの張替えをしている。時計やカレンダー、棚等を馴染みの物を持ち込むこともできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当然ながらバリアフリーで手摺も設置している。杖や歩行器を使用する方も居られるが、その動線に配慮し安全を確保する支援を行っている。		